

収穫前落果防止剤の利用法

研究のねらい

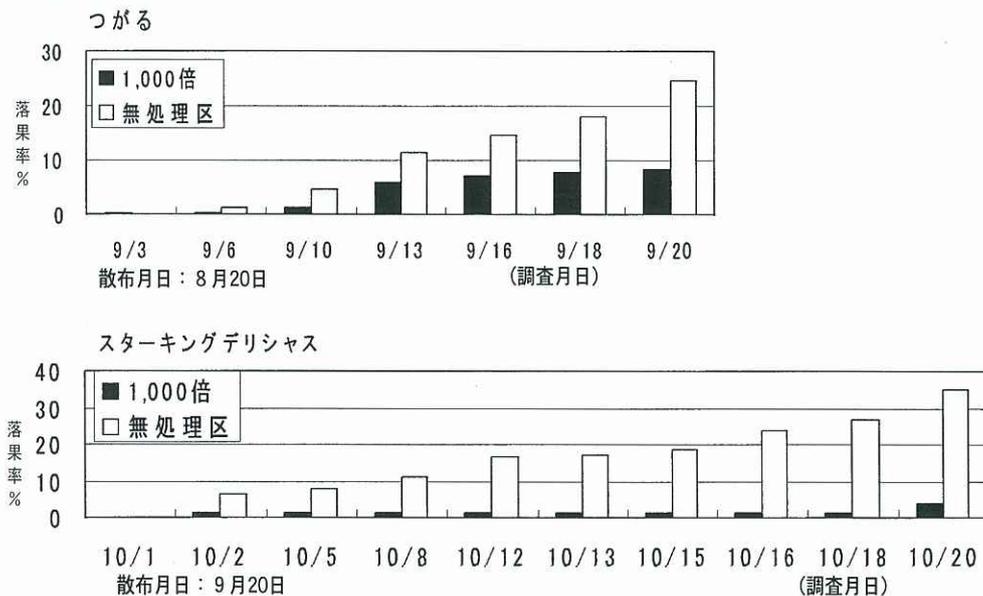
1989年まで収穫前落果防止剤として使用されたビーナイン水溶剤80は散布時期の幅が広いものの、銅剤との近接散布ができないなど使いづらい面があった。そこで、これに代わる収穫前落果防止剤の検索とその実用性を検討する。

研究の成果

ストッポール液剤とマデックについて検討した結果、ストッポール液剤が収穫前落果の多い‘つがる’‘デリシャス系’に対して安定した落果防止効果を示した。

使用方法：ストッポール液剤は‘つがる’と‘デリシャス系’を対象として、それぞれの品種の収穫25日前に1,000倍（希釈倍数）で1回散布する。散布量は10a当たり350～400ℓとし、展着剤は不要である。また、この薬剤は単用散布とする。葉から吸収されて効果を出すので葉に十分かかるようにする。葉摘みは本剤散布4～5日後から始める。この薬剤は2回以上散布したり、極端な早期散布をすると、果実の軟化や油あがり著しく早まるので基準以外の使い方は行わない。

主要な試験データ



第1図 ストッポール液剤の収穫前落果防止効果（1982年）

発表資料

1. 今井勝重（1982）. 昭和57年度リンゴ用除草剤・生育調節剤試験成績集録. 日本植物調節剤研究協会.
2. 栽培部（1963）. リンゴ収穫前落果に対する落果防止剤ストッポール液剤の使い方. 昭和58年度指導奨励事項：66-67.